

## 2018 年度実習指導者講習会報告書

日 時：平成 30 年 10 月 27 日（土） 9 時 45 分から 18 時 00 分  
平成 30 年 10 月 28 日（日） 9 時 00 分から 17 時 15 分

会 場：山口県立大学 南キャンパス D14

参 加 者：54 名

報 告 者：実習指導委員会（上村、山根、吉本、伊勢本）

報告作成日：平成 30 年 10 月 29 日



10 月 27 日（土）・28 日（日）、山口県立大学にて「2018 年度実習指導者講習会」を開催しました。この講習会は、相談援助実習の実習指導者になるために受講が義務付けられているものです。都道府県社会福祉士会主催研修として、全国統一の内容で実施されています。本会では、より実践力の高い人材育成を目的とした重要な事業と位置づけ、講習会を実施しています。今年度の受講生は 54 名でした。担当講師及びアシスタントは表のとおりです。

時間	内容	担当者
10/27 一日目	実習指導概論	内田充範（山口県立大学/社会福祉学部長）
	実習マネジメント論	岩金俊充（いわかね社会福祉士事務所/代表）
	実習プログラミング論	横山正博（山口県立大学/副学長）
10/28 二日目	実習スーパービジョン論	梅木幹司（萩至誠館大学ライフデザイン学部/准教授） アシスト：山中将嗣（やまぐち障害者生活支援センター/相談支援専門員） 則近あゆみ（やまぐち障害者生活支援センター/相談支援専門員）

1日目1コマ目は、実習指導概論でした。実習指導者に必要な基礎的な知識と実習指導者としての基本的な考え方を学びました。

社会福祉士及び介護福祉士法の改正を受け、社会福祉士養成課程の教育内容も見直されました。社会の変化に伴い、複合化・多様化する課題や福祉ニーズに応ずる社会福祉士は、専門的な知識や技術を身につけ、ソーシャルワーク機能を発揮することを求められています。社会福祉士としてあるべき姿や専門職として期待される役割や機能をふり返りつつ、実習生にどのように伝えていくか、その方法を学ぶことができました。

実習指導者は後継者育成の立場から、実践力の高い人材育成を目指し、実習教育にかかわることになります。日頃の援助実践を整理し、見直しながら取り組むことができ、実習の受入れは指導者にとっても貴重な機会となることが分かりました。



2コマ目は、実習マネジメント論でした。実習マネジメントの意義をはじめ、実習の受入れ前の準備段階から受入れ後の対応まで、それぞれの場面で実習指導者が行うべき具体的なマネジメントについて学ぶことができました。

実習時に十分な学習機会を確保できないのではないかと考える場合や、事故や個人情報漏えい、ハラスメントなど、さまざまなリスクが生じる可能性があることから、実習受入れを負担に感じる場合があります。しかし、実習受入れ施設・機関内において情報の共有や連携・調整を適切に行うことにより、円滑に実習をすすめることができます。そのためには実習指導者が所属する組織内で協力体制をつくり、環境を整えていく必要があることが分かりました。



1日目最終コマは、実習プログラミングでした。実習を受け入れる施設や機関において社会福祉士として獲得すべきソーシャルワークの知識・技術・価値を伝えるためのソーシャルワーク実習を展開する実習プログラミングの方法を学ぶことができました。

実習受け入れ施設・機関では、高齢者、障害者、児童など特有の分野におけるソーシャルワークを体験的に学ぶ機会を提供することになります。しかし実習生は、ジェネリックな知識や技術を定着化させる必要があるため実習指導者は、それぞれの施設・機関で展開するソーシャルワーク実践から個別支援や権利擁護、地域支援、連携・ネットワーキングなどの基礎的・通底的なソーシャルワークをプログラムに盛り込む必要があることを学びました。職場や職種理解のための実習に留まらず、ソーシャルワークを体験することのできるソーシャルワーク実習を実施できるよう努めなければならぬことが分かりました。



2日目は、終日、実習スーパービジョンでした。実習スーパービジョン論は、講義と演習で構成されていました。

講義では、スーパービジョンの概要と、実習スーパービジョンの概要について学びました。特に実習スーパービジョンでは、体験を思い出させ、考察させ意味づけることの重要性について学びました。

演習では、講師とアシスタントによるロールプレイ等から、以下の5つの気づきを受講者全員で共有しました。

- コミュニケーションは双方向で成り立つこと
- 気づきを促すこと
- 説明するとき、いかにわかりやすく伝えるかということ
- 表面的な相談内容から、相手の表情や雰囲気を感じ、内面的な思いを引き出すこと
- 実習生のアセスメントをどうやって進めるか

その後、実際に受講生同士でロールプレイを行い、より具体的な実習指導場面を体験することができました。



今後も、実習指導委員会では、実習指導者の要件となった「実習指導者講習会」の受講後のフォローアップとして、養成校と連携して、実習指導者のスキルアップを支援していきます。

実習指導者研修を修了されたみなさまには、ぜひとも社会福祉士相談援助実習を積極的にお引受いただき、後進育成にご協力いただきますようお願いいたします。